

漁夫の利

はってん
発展 ①

漁夫の利

(中国の古い話)

昔、中国で、趙ちやうという国が、燕えんという国をせめようとしていました。それを知った燕えんの使いが、趙ちやうの王様に会いに行き、こんな話をしました。

「ここへ来るとちゅう、川岸で、大きな貝が口を開けて、日なたぼっこをしています。そこへ、しぎという鳥が飛んできて、貝の身をつきました。貝は、すぐに口をとじて、しぎのくちばしをはさみました。」

しぎが『このまま雨がふらなければ、おまえはひからびてしまうぞ。』と言うと、貝は『くちばしをはさなければ、おまえこそ死んでしまうぞ。』と言い返しました。どちらもゆずらずに争っていると、そこへ漁師りやうしが通りかかり、貝もしぎも、両方ともつかまえてしまったのです。

今、趙ちやうと燕えんが争えば、両方の国がつかれはて、強い国の秦しんが、両方を手に入れてしまうでしょう。」

趙ちやうの王様はなるほどと思い、燕えんをせめるのをやめました。

この話から、二人が争っている間に、ほかの人が苦勞せずにとくをすることを、「漁夫の利」と言うようになりました。

1

話をしに来たのは、どこの国の使いですか。



の国

2

貝としぎが、両方ともつかまってしまったのは、どうしてですか。

3

使いの話の、しぎと貝は、何をたとえていますか。

ア 趙ちやうと燕えんイ 秦しんと燕えん

ウ 王様と使い

4

趙ちやうの王様が、燕えんをせめるのをやめたのは、どうしてですか。

5

二人が争う間に、ほかの人がとくをすることを何といいますか。
